

顧客と「二人三脚」で機能めっきの可能性を引き出す

- 海外発注可
- 納期相談
- 企画力自信有
- コスト相談
- オンライン技術
- 試作可小ロット
- 量産対応



耐候性と銅の美しさを併せ持つ樹脂製雨樋

業務内容
金属も樹脂も
顧客ニーズに応じて表面処理

家電やOA機器、住建材、自動車部品、電子部品を対象に、機能めっきやアルマイト処理など表面処理全般を手がける。プロセス開発から提案、試作、大量生産へとつなげるスタイルをとり、木村収社長は「ほとんどの取引企業と、図面を起こす前段階から関わっている」と語る。NDA（秘密保持契約）を結び、顧客との「二人三脚」でめっきの可能性を引き出す。金属だけでなく、樹脂へのめっきも昭和39年に開始。45年には、銅めっきしてブロンズ仕上げとクリア塗装を施した、耐候性の強い樹脂製雨樋を松下電工（現パナソニック）と共同開発。銅の意匠性を維持しながら、銅製雨樋で問題となっていた酸性雨への対応を可能にした。



本社工場のめっきライン

強み 「無ければ創る」の精神で薬液も開発

木村社長の「出来ないとは言わず、間口を広くしている」という営業姿勢が顧客から支持されている。プロセス考案だけでなく、薬液を化学品メーカーとの共同開発で生み出せることが強み。プリンターのOA機器ローラーで、六価クロムから三価クロムへの変更を顧客から依頼された際は、ローラー両端部でめっき膜厚が大きくなる「ドッグボーン現象」を抑制するため、奥野製薬工業（株）と薬液を開発。

ニッケルと三価クロムの硬質2層めっきにし、耐摩耗性も3倍以上に高めた。また、アルミとステンレスのクラッド材（圧延接合金属）を使用するIH炊飯器の釜においても、帝国技研の接着用銅めっきは高シェアを誇る。

海外展開 ベトナム工場で、顧客の海外生産ニーズに対応

顧客の海外生産移転に対応するため、平成26年1月にベトナムハイズン省のフックディエン工業団地で「帝国ベトナム」を設立し、同年9月に稼働した。帝国ベトナムの敷地は6000㎡。現時点で工場の建築面積は3000㎡とし、生産余力を残す。既にOA機器ローラーのめっきを開始。今後は他分野のめっきへの展開を計画している。木村社長は「将来的には、日本の本社を小ロットと開発のマザー工場とし、量産をベトナムで手がける体制にする」と抱負を語る。

今後の展望 技術者採用拡大し、めっきのデパートめざす

目下の注力課題は、新技術開発の強化だ。現在（平成26年秋時点）の共同開発プロジェクト数は6件。木村社長は「機能性めっきは、摺動性や耐久性、耐摩耗性向上でニーズが大きい」と語る。しかし、ベトナムにも開発技術者を常駐させていることもあり、新しい販路開拓につながる開発部隊の人材確保が急務になっている。「今後、さらに窓口を広げ、多種多様なめっきのデパートをめざす」ためにも積極的に人材を採用し、技術者を育成する。

COMPANY PROFILE

帝国技研株式会社

大阪 26

当社の歴史

昭和28年に帝国工業を創業し、在日米軍の砲弾のめっきをスタートしました。その後、雨樋やエンブラへの電磁波シールドめっきなど樹脂分野も開拓。コピー機の感光体へのアルマイト処理や自動車ブレーキ部品への無電解ニッケルめっきなどの金属分野と樹脂の両輪体制になり、平成18年に帝国技研として新たなスタートをきりました。



代表取締役社長 木村 収さん

あらゆる表面処理に挑戦、
私たちは不可能を可能にします。

■主な事業内容
表面処理加工全般
（めっき、アルマイトなど）

■主な取引先（納入先）
家電、OA機器、住建材、
自動車部品、電子部品、
遊戯機器メーカー

住所／〒532-0036
大阪市淀川区
三津屋中3-4-38
TEL／06-6301-3951
FAX／06-6305-0029
創業／昭和28年9月
設立／昭和59年1月
資本金／2,800万円
従業員／76名

<http://www.teikokugiken.co.jp/>